

未知との出会いを楽しみながら、掘り続ける

奈良大学は斑鳩町と共同で町内の遺跡調査を行い、斑鳩の古代史を解明するプロジェクトに取り組んでいます。毎年春休みになると学生たちが参加し、発掘調査の方法と楽しさを学んでいます。学生たちは、遺跡を掘る、記録写真を撮る、図面を描く、出土品を調査し報告書を作成するといった一連のプロセスに携わります。本物の遺跡に触れることで、実践的な発掘技術が身につきます。上級生と下級生が協力し合って作業を行うことで、チームワークやリーダーシップが芽生えていく様子を、頼もしく思いながら見守っています。

現在は、^{かぶとづか}甲塚古墳の調査を進めています。一昨年は埋葬施設を確認し、青銅鏡が出土するという成果が得られました。今年は古墳の築造年代や大きさ、形を解明するのが目標です。とはいえ、遺跡は掘ってみないとわからず、ゴールや正解もありません。でも、そこに尽きない魅力があります。遺跡調査には、地域の財産を掘り起こし社会に伝えていく意義があります。学生たちにはその一端を担う喜びとともに、地域とのつながりも感じてほしい。発掘作業をしていると、よく近隣の方に話しかけられます。そういった触れ合いを楽しみ、周囲への心遣いも学んでくれたらうれしいですね。



私自身も学生時代から遺跡調査に携わっていますが、いまだに未知のことに出会い、壁に突き当たることがあります。知識と経験、体力をフル動員してそこを越えてみると、新たな発見や成長があるものです。発掘調査は来年以降も続く予定です。あなたも参加してみませんか？

文学部 文化財学科
専門分野 / 日本考古学
豊島 直博 教授、博士(文学)
TOYOSHIMA Naohiro

【文化財学科】
ホンモノに
触れる



約1カ月半続く発掘作業。その間に絆が深まり、意外な素顔がわかることも。

掲載の内容は、2020年2月に実施されたものです

文化財学科のフィールド・アクティビティ

- 栃木県中根八幡遺跡の発掘調査
- 奈良県三輪山祭祀遺物の調査
- 奈良県富雄丸山古墳の発掘調査